

【③会議結果】

会議結果（要旨）

会 議 名	令和元年度第1回音更町総合教育会議
開 催 日 時	令和元年11月22日（金）午前10時30分～午前11時40分
開 催 場 所	音更小学校 多目的教室
委 員 出 席 者	音更町長小野信次、音更町教育委員会教育長宮原達史、教育長職務代理者田中義博、教育委員石川秀朗、教育委員種川健
事 務 局 出 席 者	企画財政部長渡辺仁、企画財政部企画課長重堂真一、教育部長福地隆、教育部学校教育課長草浦富美、教育部生涯学習課長佐藤直樹、教育部文化センター館長兼図書館長小塩教敬、教育部スポーツ課長八鍬政幸、教育部学校教育課総務係長定村剛志
傍 聴 者 数	無し
議 題 ・ 諮 問 内 容	1 会議録署名者の指名 2 会期の決定 3 協議事項（1） 教育に関する諸条件の整備について 協議事項（2） その他
会 議 資 料	
会 議 結 果	別紙会議録のとおり
（出された主な意見等）	
お 問 合 せ 先	教育委員会学校教育課総務係

【③会議結果】

令和元年度第1回音更町総合教育会議会議録

と き 令和元年11月22日

ところ 音更小学校 2階 多目的教室

委員出席者 小野町長、宮原教育長、田中教育長職務代理者、石川委員、種川委員
事務局出席者 企画財政部長渡辺仁、企画財政部企画課長重堂真一、教育部長福地隆、教育部
学校教育課長草浦富美、教育部生涯学習課長佐藤直樹、教育部文化センター館
長兼図書館長小塩教敬、教育部スポーツ課長八鍬政幸、教育部学校教育課総務
係長定村剛志

傍聴者数 0人

開会（10時30分）

令和元年度 第1回音更町総合教育会議

（教育部長）

ただいまから、令和元年度第1回音更町総合教育会議を開催いたします。
なお本日、川井委員から欠席の届けがありましたのでご報告をさせていただきます。
これ以降の進行につきましては、町長にお願いいたします。

（町長）

それでは議事に入らせていただきます。
はじめに会議録署名者の指名を行います。本日の会議録署名者は種川委員を指名いたします。
続いて、会期の決定を議題といたします。会期を本日の1日間としたいと思っております。
ご異議ありませんか。

（各委員）

ありません。

（町長）

それでは、異議なしと認めます。会期を本日の1日間に決定いたしました。
次に、協議案第1号 教育に関する諸条件の整備についての件を議題といたします。
議案にありますとおり今回は、小学校の外国語活動についてをテーマに協議を行いたいと思
います。
初めに概要説明を行いその後、授業参観をし、最後に意見交換という流れで進めたいと思
いますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

まず新学習指導要領の全面実施による外国語活動の内容について事務局から説明をお願い
いたします。

草浦学校教育課長、お願いいたします。

（学校教育課長）

皆さん、おはようございます。

【③会議結果】

それでは、私の方から「新学習指導要領の全面実施による小学校外国語活動の概要について」ということで、ご説明させていただきたいと思います。お手元に配布の資料をご覧くださいと思います。平成 29 年 3 月に告示されました新学習指導要領が、小学校につきましては、いよいよ来年度全面実施となります。この機会に、移行期間である昨年度から準備を進めていただいている小学校の現場を見ていただきたいと思いますと考え、音更小学校へ訪問させていただくようなことにいたしました。

それでは、はじめに、「1 新学習指導要領における小学校外国語科導入の趣旨」ということで、「現行指導要領との大きな相違点」についてご説明いたします。

まず、(1) 高学年の 5・6 年生につきましてでございますが、これまで「外国語活動」だったものが、「英語科」として教科になりますので、新しく検定された教科書を使用して授業を行い、その評価の結果を評定、通知表に記載することになります。また、中学年の 3・4 年生につきましては、新たにこれまで高学年がやっていた「外国語活動」を行うことになります。それに合わせ、(2) になります。授業時数が、高学年では、これまでの「外国語活動」の年間 35 時間から、英語科の教科としては 70 時間に倍増し、中学年につきましては新たに年間 35 時間増えることになります。年間 35 時間といいますと、だいたい週 1、2 回は外国語活動があるということになります。

また、(3) 新学習指導要領で示された「何ができるようになるか」という観点からの目標設定として、英語の目標であるコミュニケーション能力育成のために、具体的に「できる」、「できない」と評価可能なリストを学校ごとに設定し、達成状況を検証することとなります。

中学年の外国語活動の目標は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成したり、外国語に慣れ、外国の言語や文化に気づくことが目標となっておりますので、授業では、絵カードやクイズ形式で問題を出したりして、楽しい雰囲気の中で、言語や文化の理解を深め、コミュニケーションを醸成しようとしています。高学年では、教科としての英語であるため、これまでの小学校での「聞く」、「話す」の音声中心の教育に、これからは「読む」、「書く」が始まり、さらに中学校への接続が出てくることとなります。これらの指導は、学級担任が行いますが、併せて外国語指導助手、外部人材、専科教員などを活用することも可能でございます。資料の 2 枚目 3 枚目に小学校で使う「Classroom English」、教室で使用する英語の一覧を添付してありますので、参考にご覧いただければと思います。小学校までに 600 語から 700 語位程度を勉強するというので、このような文章も話せるようになることを目標にしているところです。

次に、2 番目の本町の小学校外国語科導入の経緯についてでございますが、平成 14 年度に全面実施されました学習指導要領から、新しく導入された「総合的な学習の時間」の中で学校の裁量により実施されており、この頃は学校ごとに、方法も時間数もばらつきがあり、外国語の先生も地域の方を呼んで英語に触れさせたりとか、内容は学校に任せたようなものでございました。

平成 23 年度からは、5・6 年生を対象に、「総合的な学習の時間」を活用した「外国語活動」の授業時数が年間 35 時間と定められ、その後、平成 30 年度からの移行措置期間を経て、来年度からの全面実施となっております。裏面をご覧くださいと思います。これまでの町としての外国語活動に関する取組でございますが、(1) の英語講師の委託につきましては、「外

【③会議結果】

国語活動」が始まった平成 21 年度から、町として、「学級担任に英語授業の実績がないことによる指導の格差が生じないよう」という考えから、当初は 1 名の英語講師を各小学校に巡回させ指導を実施しておりました。その後、授業時数が増えた平成 23 年度から現在まで、外部講師として NPO に委託し、指導する担任のサポート体制を拡充しています。

この英語講師の派遣では、同じ NPO の講師が全ての学校に派遣されることにより、早期のうちに、担任がチームティーチングをやるうちにスキルを身につけることができたこと、全ての学校共通の絵カードなどの教具やテキストが整備されたこと、それから子どもたちが NPO の先生の「ALL English」というものに慣れ、とにかく話してみようという環境ができたということが、大きな効果としてございます。こちらについては、後ほど授業参観を予定しております。

また、(2) の英語指導助手 (ALT)、当時は AET ということで、昔は英語だけだったのですが、今は町の考えで色々な国の指導助手を派遣していただけるようになっていますが、こちらは、国の制度を活用して平成元年 8 月から 1 名を中学校に派遣していたこともあり、中学校の指導がない日に小学校への派遣を行っております。現在のマルタン・ピナール氏は 14 代目となっております。また、今年 8 月からは、ロビンソン・ブリタニーさんとの 2 名体制になりましたので、年間を通して小学校への派遣も可能となったところでございます。こちらにつきましても、後ほど授業参観を予定してございます。(3) 道教委による「外国語活動巡回指導教員研修事業」につきましては、移行措置期間の前年度平成 29、30 年度の 2 年間で、専門性の高い緑南中学校の英語教員 1 名が町内の各小学校を 5 日間のうち 4 日間、2 年間で全部の学校を巡回していただいて、模範授業ですとか、チームティーチング、校内研修などを実施していただきました。こちらにつきましては、指導を担当する先生方の自信にもなり、指導力向上に大きな役割を果たしていただいております。4 その他の取組といたしましては、(1) になりますが、一部の学校で、外国語専科の教員などが配置され、担任の指導力向上や負担軽減につながっております。なお、こちらの音更小学校では、今年度はこのような外国語専科の講師とか時間講師が配置されておられませんので、指導の中心は全て学級担任が行っていることとなります。このほか、小中連携事業による中学校教員の小学校への出前授業の実施などがございます。

最後になりますが、現在の課題といたしましては、教員の英語の指導力向上、増加した年間授業時数の確保、優秀な ALT や専門性の高い人材、外部人材の確保、新学習指導要領で教科化された道徳やプログラミング教育等々教員の負担増ということが挙げられるかと思っております。

以上で「外国語活動」導入の概要についてのご説明を終わります。

(町長)

ありがとうございました。

引き続き、学校経営方針外国語活動の状況と課題等について、音更小学校の沼田校長先生からご説明をお願いいたします。

(音更小学校校長)

みなさま、おはようございます。音更小学校校長の沼田でございます。本日は小野町長様、企画財政部の渡辺部長様はじめ、町長部局の皆さま、そして音更町教育委員会の皆さまの本校

【③会議結果】

への訪問に際しまして、心より歓迎申し上げますとともに、本校の学校経営並びに外国語活動の現状をご覧くださいますことを心から感謝申し上げますところであります。本日は、貴重な時間を頂戴しましたので早速説明の方をさせていただきます。初めに本年度の学校経営について説明させていただきます。お手元に本日の会議資料ということで、音更小学校経営説明資料をご用意いたしましたので、そちらの表紙をめくっていただきまして学校経営のグランドデザインをご覧くださいたいと思います。

本年度の学校経営理念は、「笑顔で登校、笑顔で下校」とし、子どもの良さを伸ばしていける学校、さらには子ども一人ひとりが「主人公が私」と実感できる学校、そして子ども、教職員、保護者地域住民が「私の学校」と誇れる学校を目指しております。そして今年度の学校経営の重点を「つながり、かかわり合う響育の推進」とし、5つの視点から教育を推進する学校づくりに取り組んでおります。視点の一つ目、「自分づくり」でございますが、自ら志しを持ち、社会の変化に主体的に対応できる確かな学力の育成を目指し、そのために8点具体的な取組を進めているところでございます。この中で外国語活動の取組がございます、注釈がございますが、後ほど説明させていただきますとともに、授業をご覧くださいたいと思っております。2つ目の視点は、「心と体づくり」に関してでございますが、どんな困難にも負けない強い心と体の育成を図ります。そのために5つに渡って具体的に取組を進めていくことであります。その中で、若干同じ説明をさせていただきますが、今年度特に力を入れているのが2つ目の黒い星でございます「音小のしぐさ」ということで、「しぐさ」にその人の心が見えるということで、「あいさつ・返事・廊下歩行」、さらには「靴のかかとを揃えること」、「授業中の姿勢を正しく保つこと」、この4つのしぐさについて子どもたちに定着するように一年間継続的に先生方をお願いしているところであります。後ほど授業参観等ご覧いただくときに、下駄箱を見ることもあると思いますが、靴のかかと、かなり揃ってまいりました。朝の挨拶もかなりよくなってきたと自負しているところでございます。そして3つ目でございますが、体力の向上でございます。こここのところは、本校体育専科を配置していただいております、それを核としながら汗をかく体育、汗をかくことを快感に感じる心の育成ということで体力づくりに取り組んでいるところでございます。それから5点目の「食育について」でございますが、音更学校給食フードリサイクルプロジェクト推進とともに、自校給食に強みを生かした栄養教諭による食育指導を全学年において実施をしているところでございます。視点の6つ目でございますが、「仲間づくり」ということで、友達と力を合わせ成し遂げることのできる力を育成し、いじめを絶対に許さない環境づくりを目指しています。そのために、4点に取り組んでいます。その中で特に今年度キーワードとして取り組んでいる組織的取組ということで、組織的ないじめの対応、さらには組織的な不登校児童への対応ということに重点を置いております。特に不登校の対応については、職員一丸となって取り組んでいる成果の一つとして、完全に学校に来れない不登校児童というのは、今のところ1名もおりません。教室の中に入れない子が、1名いるのですけれども今、週に3日ないし4日学校に来て過ごすことができるようになってきております。4つ目の視点「チーム音小づくり」でございますが、集団が組織となるために重要なことは、目標に向かいベクトルを揃えて教師がつながりあい、力の効果を最大化することだと思っております。そのために8点に渡って、具体的に取り組んでおります。その中で特に重点をおいているのは、組織的対応ということで、本校通常学級が複数ございますので、そのメリ

【③会議結果】

ットを最大化してチームとして支え合うこと、それが個々の負担や負担感の軽減をはかるということで、働き方改革にも結びつく視点ということで取り組んでいるところでございます。最後の視点でございますが、家庭、地域との連携協働づくりということで、学校の中に地域の教育力を導入し、多くの人とつながる中で子どもを育成するということで、具体的に7点に渡って取り組んでいるところでございます。特に家庭の教育力、地域の教育力という点では、今後導入を予定されておりますコミュニティスクールを見据えながら地域等への啓発と活用ということを図ってまいりたいと思っているところであります。大変雑ぱくでございますが学校経営については、以上でございます。

続きまして、本校の外国語教育に関する外国語活動の現状と課題について説明させていただきます。ただいまご覧いただきました資料の2ページ目から具体的に書かれておりますが、限られた時間でございますので、最後に付けました1枚ものをご覧いただければと思います。まず、現状でございますが、本校の外国語教育、外国語活動の特徴は、学級担任の指導を主とするということでございます。それに加えネイティブスピーカーあるいは、英語が堪能な地域人材ということでALT、さらにはNPO教育支援協会の支援をいただきながら進めているところでございます。学級担任の指導力を上げるために学校全体で行っていることは、主に2点でございます。1つ目は、指導イメージの共有ということで共通した授業展開をすることによって、指導の不安を解消することです。したがって高学年になりましたら5年生、6年生いずれも同じ指導パターンを作りまして、それに則って指導していくということで、指導力の段差を感じさせないような、そんな取組をしているのが1点目です。もう1点目が教師の英語力の向上ということでございます。英語といいますと細かい英語の発音とかがありますが、そういった細かいところよりも、コミュニケーションを教師自身が楽しむということで、コミュニケーションの慣れを自信に変えて、子どもたちに指導したい、この2つのことを学校全体として大きな柱として取り組んでいくところでございます。これをサポートしていただいているのがチームティーチングとして一緒にやっていただいておりますALTさらにはNPO教育支援協会でございますが、このALTと教育支援協会のメリットは、そこに3点書かせていただきましたが、授業づくりについて学級担任を細かい部分までサポートいただいていることが1つあります。2点目には、ネイティブは会話ができますので、学級担任との会話モデルを務めていただけること、さらには子どもとのやり取りに直接力を発揮していただいているところであります。3点目、これが一番大きいかと思いますが、子どもたちに異文化理解の促進を図っているところであります。マルタンさん、ブリトニーさんをはじめ実に表情豊かに、身振り手振りをつけながら楽しそうに子どもたちと接していただいているその姿を見ることが、子どもたちにとって一番の外国語教育、外国語活動につながっていくかなと思っているところでありますし、そういった姿が教師の慣れから自信に変わる大きな力になってくれていると感じているところでございます。なお、具体的に指導時数の関係ですが、今後でございますが、今年度途中ALTが二人体制になったということもあったり、町内的には英語専科の先生が入った学校もあるということ、本校にALTやNPOの入っていただく時間が増えたということもございまして、高学年ですと、概ね大体70時間のうち50時間程度がサポートに入っていただくような予定であります。中学年の外国語活動であれば大体35時間のうち20時間くらいは入っていただいている。そうしますと、学級担任のみの指導時間は、高学年だいたい年間20時間くらい、そ

【③会議結果】

して中学年 15 時間くらいでございますが、チームティーチングとしても行っております 50 時間、この 20 時間の成果は学級担任だけでやるよりも高学年で 20 時間、中学年で 15 時間、はっきりとした成果として反映されているかなということでございます。ということで、この後実際に授業をご覧いただきたいと思いますが、学級担任が楽しそうに進めている授業の様子、ぜひ見ていただければと思っていますところでございます。大変雑ぱくではございますが、以上で学校経営並びに本校の外国語教育の現状についてご報告をさせていただきます。ありがとうございました。

(町長)

ありがとうございました。ただいま説明のありました件について、ご質問等ありましたらお受けいたします。

田中教育長職務代理。

(田中教育長職務代理)

今、説明を受けまして理解しているところです。校長先生本音で高学年で 20 時間、中学年で 15 時間でどうですか。それも担任も、いるんですけども、その時間に担任じゃない人にみてもらう方が本当はいいという考えなのか、それともこれくらいは担任の人で面倒を見ていただく方がいいのか。

(沼田校長)

私自身は、このくらいの時間は担任でやるべきだと思っております。

(田中教育長職務代理)

そうですか。

(沼田校長)

実際に担任だけでやっている授業場面も参観できるんですけども、非常に良くなってきていると思っています。何がいかというと指導力、細かい部分はわからないところがあるんですが、実に楽しそうに 3 人がやっている。それが成果として現れている。これであれば本町のために、チームが十分整っていない町村に行っても学級担任という外国語活動を指導できる力量をもって転勤できるなと思いますので、この時間はやれるという感覚は得たと思っております。以上です。

(町長)

ありがとうございます。ほかに。

(田中教育長職務代理)

町長とも、ちょうど 8 月にお会いした時に少し話をさせてもらって、町長が英語教育に理解を示しているのがわかりました。僕が、実際問題、先ほどから出ていますがマルタン・ピナール先生がいることで指導の要領が変わるところを見てきているのですが、プラスになってくれるなと感じています。今日は、授業もあるんですけども、もっと活躍するのではないかなと思っています。

(町長)

およそ、今の説明の中でご質問についてはよろしいですか。

(各委員)

はい。

【③会議結果】

(町長)

ありがとうございました。ほかになればこれで質問は終わりといいたしますが、今授業参観を行いますのでご案内をお願いいたします。

暫時休憩といたします。

(町長)

休憩を解いて会議を再開します。

これから意見交換を行いたいと思います。はじめに、教育長、教育委員の皆さんからご意見などお話しただければと思います。資料に関する質問でもかまいませんのでよろしくお願いいたします。それでは、まず種川委員からお願いします。

(種川委員)

授業を見た感想と言うことで申し上げたいんですけど、NPO 法人の方、4年生と6年生はあのマルタンさんを見て思うのですが、表情いつも豊かで身振り手振り、顔の動き、それも非常にコミュニケーションに大事な、そういうのなんだろうなという風に改めて思いました。やはり英語というのは、聴ける、話せるという前のハードルとして外国の方と顔を向き合わせて、そして、身振り手振りを入れながら意思を通い合わせるということが基本にあるような気がして、そういった点が ALT の存在感が非常に大きいなど、子どもたちにとっても非常に学ぶべきものがたくさんあるんじゃないかなと思っていました。沼田校長先生も説明のところで ALT の方に来てもらうというのは、異文化理解の促進に大いに寄与すると、存在そのものが異文化理解で自然に、子どもたちが異文化に接する機会が普段の授業の中でふんだんにあるということは何よりも音更の子どもたちにとって幸せなことだなというふうに改めて感じました。以上です。

(町長)

はい、ありがとうございました。

それでは、引き続き石川委員お願いします。

(石川委員)

私も、普段学校訪問で、授業を見させていただいているんですが、こう長い時間というのは、あまりなくて新鮮な部分も多かったですけども一つ感じたのは、種川委員がおっしゃっていましたコミュニケーションの状況が子どもたちはすごいなと思いました。自分の頃をちょっと振り返りながら色々みているのですが、自分たちが子どもの時、習ったころは、英語の発音をすること自体恥ずかしいとか、会話をしているのが恥ずかしいとか抵抗感がありました。正直、英語っぽい滑らかな発音することとか、恥ずかしいとか、どちらかと言うとカタカナっぽい印象でやっていたような気がします。けれども子どもたちをみていると6年生の授業では言う言葉聞いて、日本語ですけれど反応しながら、こういうことかとぶつぶつ言いながら反応していて非常に音に抵抗がないのかなと思いました。そうすると、その人たちの存在に抵抗もなくなるのかなと、私はまず見た目正直抵抗感があって取っつきにくいとか苦手とかありました。汽車でたまたま隣に一緒に座ったことがあったんですけども、なかなか話ができなかったので、そういう面でも実際のしゃべれる方、明るくしゃべられる方、抵抗なく表現できる

【③会議結果】

方、ネイティブな方と接するという事は非常に大きいことなのかなと思いました。異文化に触れるという部分では言葉が違っても場所が違ってもその同じようなものもあるし、また違うものもある。比較が将来できていくことになるのかなと思います。また、外部のことも音更に置き換えるとうなると、自分に置き換えるとうなるとかを考えられる時に子どもたちも感覚が広がっていくのかなと、期待が非常に大きいです。

そんな感じがありました。

(町長)

はい、ありがとうございました。

(田中教育長職務代理)

今年の音更町教育委員会学校訪問のテーマは小学校の外国語活動と中学校の英語をテーマにして全部の学校で校長とか教頭から色々な話を聞いて、実際授業を見させてもらって特に小学校の先生は、英語専門というわけではないので本当に苦労されてやってるのが事実です。ただこうやって音更町がですね色々な機会を作っていますので、よく音更いっぱいやってくれてると思ってる実際にね。というのは、昨年度の学力・学習状況調査をやりましたら、音更町は正答率ですけれど、平均正答率で 56%だったんですね。北海道の平均が 54%です。全国平均は 56%ということで一応音更町は全国並みの英語に対する正答率はあったんですね。これはやはり先ほど草浦課長の方から話がありましたけれど、今までの歴史の中にこういう一生懸命、音更は英語教育に対して色々工夫されてきた結果じゃないかと僕自身思ってるんですね。ただ、先ほど校長のほうに、もっと外国人の英語指導の先生を一人増やしてもらったらどうですかと振ったのですが、沼田先生は二人でいいと、私はもっと多くていいんじゃないかと思ってます。マルタン先生みたいな白人の少し小さい人がいます。今回ちょっと大柄な肌の黒い女性が来ました。僕、これが良いと思うんです。顔の色が違う、体の大きさが違う、文化が違うというのをうちの息子も今海外にいますけど、やっぱり違うんです。その国で育った人と外国行って留学して何年か居てと言う人はちょっと違うんです。外国人の英語指導じゃなくてもいいじゃないかと言われたんですが、そうではないです。外国人だから意味があるんですと話をしたことがあります。できれば黄色人種じゃないほうがいいとも話をしたこともあります。ぜひ今までの結果も出ていると思うのですが、これから継続していただきたい。それから 5、6年生の評価に関して担任の先生が評価をしなくてはいけない。ALT や NPO の支援の先生が評価するのではないですから、英語助手をやっている先生と担任とのコミュニケーションができてないと評価が難しいところがあると思います。そういう意味で結論から言うとマルタン先生になんとか短年度契約ではなく落ち着く場所も含めて音更町の立場もあります。彼を利用すると言う言い方は失礼ですが、できないかと正直思っております。そうすれば評価の面で、5、6年の担任の先生にとってもいいのではないかと思ったのですが。まあこれは、私の意見ですけれども。いいと思いました。これからもよろしくお願ひします。

(町長)

はい、ありがとうございました。

それでは、教育長お願ひします。

(教育長)

ほとんど、お三方がおっしゃられたので重複しないようにお話ししたいと思います。まず、全

【③会議結果】

国学力・学習状況調査今もお話にありましたように、全国レベルのそれ以上の音更町の中学生の英語ということでこれは、おっしゃるとおり英語教育の賜物だと思うのですが、話すこと、聞くこととか色々分野がありますけれど、聞くことが群を抜いて音更町の中学生英語の分野ではいい成績を出しています。これはやはり、小学校、中学校と子どもの頃から本物の外国人の英語を聞いているというのが大きいと思います。先ほど町長とお話したのですが、私たちの頃は、本物の外国人を見るということはなく、高校を卒業してからじゃないと見れない状況だったのです。本当に臆することなく外国人に対してコミュニケーションを取っていける下地というのは、今できつつあるのかなと思います。英語指導助手のALTの人数のお話も出ましたが、確かに十勝管内他の市町村に比べるとALTの数は、音更町は少ないです。児童生徒の割合から比べると。ただ補って余りある人材が来てくれているということと、教育支援協会が人を集めて、そこに委託してやってる部分は、非常に上手くいっているということだと思います。これからは時間数が色々出てくるとは思います。来年から新学習指導要領全面実施に入って、検討事項があれば検討しながら、みんなの力が必要だと思います。異文化については、異文化を知ってこそ自分の住んでいるところ、日本の文化の良さも知ることにもなると思いますので、その中で生まれ育った故郷のよさを知ることにつながってくると思います。非常にいい形に今なってきましたので、本当に正式な教科になって来年からどういった課題がでてくるかわかりませんが、初めてのことで、やってみてALTあるいは支援協会と検証していきたいと思います。以上です。

(町長)

ありがとうございました。それぞれ様々なご意見をいただきましたけれども、ほかに皆さん方から出た中で、こういうこともというお話があればお話いただければありがたいと思います。

(田中教育長職務代理)

先ほど、本当の外国人という言い方は失礼なのですが、私のところに帯広にありますJICAでお正月に家の下の子が3歳のときに、日本のお正月を経験させてあげたいということで、女性を3日間受け入れたのです。その人がアフリカの女性二人でダカールから来た黒い人で本当に黒く、次男坊が寄っていかないんですよ。見たことない顔の色、長男のほうは、6歳だったので、相手が英語をしゃべれたので、その時にすごいショックを受けたわけでした、失礼をしてしまいました。それが3日もすれば、ひざの上ののったりもするんです。こういう体験というものが結局は生きていく、そのうちに言葉が通じなくてもいい人だとわかればそうしてくんだなと実感ができました。

音更も観光客が来るようになったので、まあアジア系の方が多いので、なかなか英語をペラペラ話したりしていないですが、こないだラグビーを観に行ったらでかい声で英語でバリバリしゃべってるわけですよ。そういう環境って必要なので、音更でも英語教師をどんどん増やしてほしいって思いました。

(町長)

たくさん聞かせていただきました。

ほかになければよろしいですか。若干私からもですが、皆さん方のお話を聞かせていただきまして、今日の印象等を含めて色々最初の種川委員からお話がありましたけれども、私も相手に伝えるという、身振り手振り、教育長からもお話がありました。聞ける、話せるはず

【③会議結果】

れにしても音更の今の外国語に対する姿勢というものは大変にその効果が今日の ALT マルタンさんの姿を見ても、あるいはその前の4年生の授業を見ても本当に今おっしゃったとおり、音更の子どもたちに対する効果が随分あるなど、幸せだなどお話があったけれど、これが印象かなと思いました。

あと石川委員さんから、あるいは、宮原教育長さんからお話があった、振り返った時に英語、外国人として、違和感というお話があったように、恐怖とまで言わないけれど、外国人が歩いていなかったもので、それくらいまさにカルチャー異文化のように感じた。だけど皆さんがおっしゃるように2つの教室を見たときに何の全く異文化すら感じないくらい溶け込んで、まさに身振り手振りを含めてです。石川委員いわく、抵抗なく同化している姿を見たという感じがまさに、すごい効果があるというのは事実だと思っています。田中委員さんからもありましたし、宮原教育長も前段で会議の前の話でしたが、小学校の先生方、この専門性といったところではない中で、後には、そういいながらも我々が母国語の評価をしていかなければなりません。こう言ったときにその後の音更はどう考えるのかという話がありまして、合わせてその前にちょっとお話させていただきたいのは、全国的に見た中での数字を示されて56%という効果があり、全国並みといいながら相当高いという中では特にすごいなと見ててもそう思ったのですが、教育長からもお話がありましたその中の加点評価のなかでもヒアリングというか聞くことに対するそこが、群を抜いているという、これはまったく環境変化、異文化の前に、全く同化している。そこもさっき二つの教室を周って、あまりのすごさにびっくりしてしまったのですが、これが、外国語や教育長からもお話がありましたけれど、外国人に会う機会、他町村、他よりもそういった環境が整っている音更町にあるんじゃないかな、こういう成果の賜物だというお話がありましたけれど、私もそう思ってみました。

合わせてこれから新たなスタートをする中での課題、教育長からお話がありましたけれども、このことについては、やはりこれだけの土壌がある中では恐れずやってみて、そういったものをさらによくしていくために、後に十分それは検証しながら、また次のステップを図るんじゃないかと、私も思ったところであります。あとは、もうまさに田中委員からお話がありましたが、皆さんそれぞれ言葉にまだ表現はしないけれども、こういった ALT の個人名を出してマルタンさんとお話ありましたけれども、人材は適合している人をその人に来てもらうということは、いつでもできるのですが、人材、人そのものという確保は、一様にならないということです。これは、皆さんが言葉にも出しながら顔にも出してるのでこれが、教育委員会ですっかりこれから、町としてもやはり、音更人として、やはり我々は認めるところはしっかり認めながら今後どういうふうに親しくなっていくかを考える。同化っていう馴染んでいただいている以上にそれが、学校教育、生涯教育含めて色々なところに波及しているのを随所でお伺いしています。それが、最大こう言った中での会議がある中でどんな知恵が出せるのかを含めてゆっくりに、時間は限られているかも知れないけれど、そういうことも含めてこれからの大きなポイントづくりでみんなで考えられる機会があればいいかなと思います。雑ばくでしたけど皆さんの話を聞かせていただきながら、皆さんがたの意見に対する感想を述べさせていただきました。それでは、今皆さんのお話を出していただきました他に、若干ですがまだ時間がありますが、全体を通じて他にご意見があれば伺っておきたいなと思いますけど。よろしいですか。

【③会議結果】

(各委員)

ありません。

(町長)

なければこれで、協議案第1号 教育に関する諸条件の整備についての協議を終了いたします。

その他、提案した協議案以外に何かあれば受けておきたいと思います。

ありませんか。

(各委員)

はい。

(町長)

なければ、今日本会議に付されました、協議案件の審議はすべて終了いたしました。

これをもちまして会議を閉じたいと思います。

よろしいでしょうか。

(各委員)

はい。

(町長)

それでは、ありがとうございました。

(教育部長)

以上をもちまして、令和元年度第1回音更町総合教育会議を閉会いたします。

本日は、お疲れさまでした。

閉会（11時40分）